

顔が見えるまち！集会所全面展開のまちづくり事業

—No.61 宮代町—

【事業の目的】

当町が設立を支援している、地域で自主的に運営する地域交流サロンや、介護予防・健康づくり教室、地域敬老会、自主防犯・防災組織について、地域での取組が進まない課題の一つとなっている活動のキーマンとなる人材の育成を効果的に実施するため、それぞれの事業を、集会所を中心とした事業として再構築することにより人材の育成と人材情報の集約を図るものです。

【事業の内容】

全ての事業を一括で進めるのではなく、地域の方々が気軽に参加でき楽しめる「地域交流サロン」を地域での取組の第一歩として位置づけ、地域の実情に合わせて段階的な地域の発展を促進します。更に、地域住民を特派員として構成する「みやしろインターネット放送局（ユーチューブを活用した動画発信）」を通じて、地域の取組を発信し、地域活動への参加者拡大や優良な活動の他地域への拡大を図ります。なお、特派員が取材を通じて地域を知ることで、地域の人材として、その地域に還元される好循環も生まれます。これらの事業を集会所全面展開のまちづくり事業としてパッケージ化し積極的に事業を展開します。

【事業年度】

平成28年度～平成30年度（3か年）

【予算額(千円)】

42,963千円（平成28年度～平成30年度）

うち 12,661千円（平成30年度）

【財源】

地方創生推進交付金（国）、一般財源（町）

【事業実施に至った背景・経緯】

宮代町は、戦後の高度経済成長期に複数の団地を開発し、東京を中心とした都市圏のベッドタウンとして人口増加を続けてきましたが、近年では、核家族化や加速度的に進む少子高齢化により、一人暮らしの高齢者が増加し、不安な日常生活を送っている方も少なくありません。

また、ライフスタイルの多様化、世代間での価値観の相違から、地域コミュニティが希薄となり、顔を合わせる機会・地域で活動する機会が減少しています。このような状況の中、改めて地域コミュニティの再生が求められています。

一人ひとりの「顔」が見え、「つながり」を実感できる社会は、そこで生活する人にモノや制度以上の安心感や充実感をももたらすことができます。特に人口減少、超高齢化が進む中では、高齢者の見守りや健康の維持、防犯、防災など、多くの分野でこうした社会の実現が求められています。

【事業のPRポイント】

地域づくりの拠点となる集会所が各所にあり、町内全域に配置されているため、誰もが容易に地元の集会所へ足を運ぶことが可能です。加えて、従来から市民活動が活発で、地域の自立性が高いことが当町の特徴であるため、これまで町が取り組んできた高齢者の見守りや敬老会、防災事業などを、地域の課題として地域で取り組む環境を整備することで、地域コミュニティの再生が図られます。

【今後の展開】

当該事業により、地域の様々な課題を地域自らが解決するための第一歩となる自主組織の立ち上げの道筋が確立します。また、活動の支援や優良活動の他地域への拡大が効果的に展開できるほか、実施計画期間内に蓄積した地域活動のキーマンとなる人材情報を活用することで、持続的な自主組織の設立支援の仕組みが確立します。

〔 連絡先 〕

企画財政課 財政担当 0480(34)1111(内線216)